



# 地域会からレポート

今回は首都圏・中部編です P3-P9

東京西部・山梨地域会の催事。  
子どもたちも手伝った。

記念写真の前に帰られ  
た方もおられ申し訳  
なかったとのこと。

## CPI 東京西部・山梨地域 世話役代表 森下政信さんから

11月3日の料理教室に、木下さんという方が主催されている「子どもたちのための英語教室」の子どもたち7名を連れて参加してくれました。C.P.I.本部の小西会長から、「地域会の催しに参加するところから始めて下さいませんか」との紹介があったということで、喜んで参加戴いたのです。子

どもたちは日ごろ、外国の人たちと接したいと言っているだけあって、皆とても熱心でした。その中のひとりが、素晴らしいメールを木下さん経由で、くれましたので、ご紹介します。

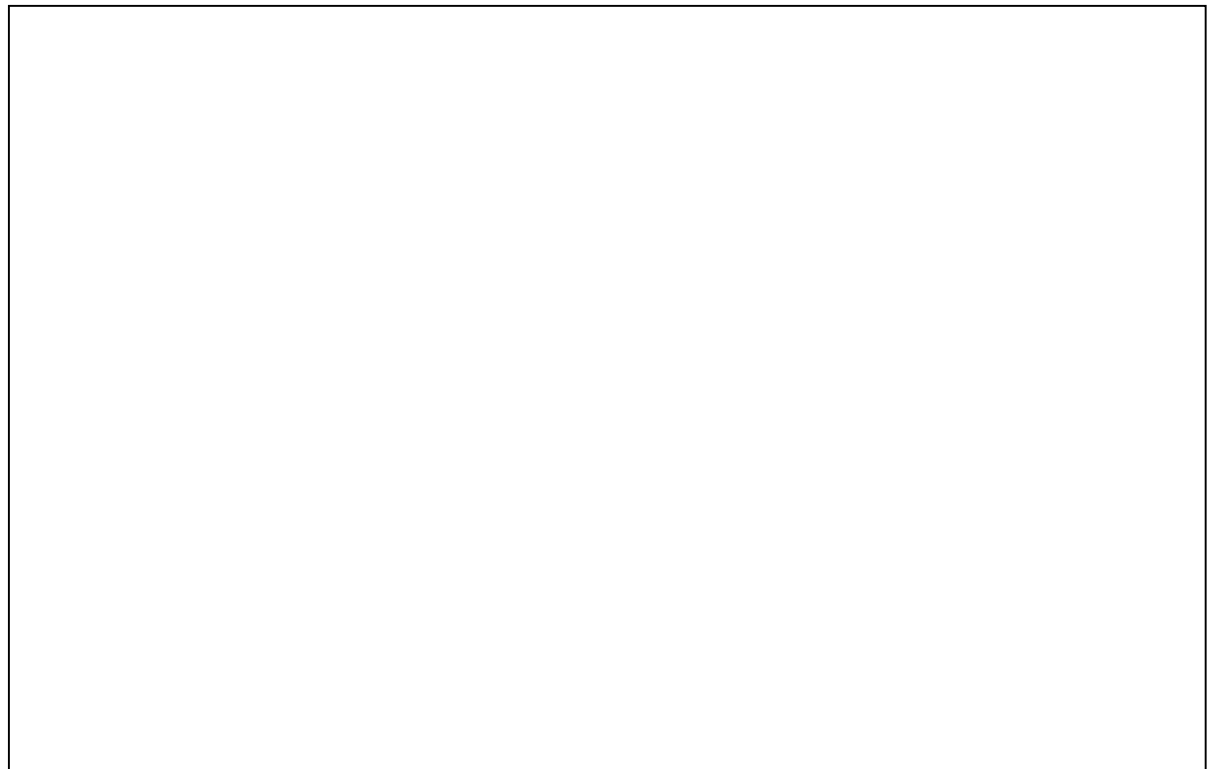
本当に嬉しいですね。他にも楽しいのが集まってきているそうです。こういうお便りがきますと、また楽しみが増えます。こういった広がりが増えるといいですね。今回の催しにアドバイスくださった、北海道・千葉の地域会に感謝します。

- > たのしかった料理教室
- > 4年 南雲みどり
- >
- > わたしは、ふだんあまり料理はしないので、ちょっと心配でした。
- > 外国の料理だし、外国の人も3人ぐらいいたので、はじめは緊張しました。
- > でも料理作りがはじまると、おじさんやおばさん、外国の人とも、すぐになかよく
- > なれて、やりやすくなってきました。きいろいカレーを作りました。
- > そして食べました。なおや君が手で食べていたので、わたしも手で食べてみました。
- > ちょっとからかったけど、おいしかったです。
- > たのしい1日でした。また行きたいと思いました。

- 
- > みどりが大変にお世話になりました。
  - > はじめは緊張していたようですが、まわりの方々によくして戴いたのでしょう。
  - > みどりでも出来る事をさせていただき、自分もしっかりと料理作りのたのしさを
  - > 味わったようです。有難うございました。

南雲 母

次は静岡中部地域会（世話役代表 河原崎久和さん）から送られてきた写真です。



静岡中部地域会のみなさんは、10月21日、瀬名の梶原山公園で留学生との友好交流。留学生は13名とともに楽しみました。

## 新生・神奈川地域会

神奈川地域会は、平成 13 年度から新しい世話役代表として小須田和良さんが就かれました。組織も連絡協議会から地域会へ活動形態を変更して、会員数の減少により弱体化した組織を再結集して、神奈川（県央地域会は独自に活動を続けます）の活動強化を図っていくことになり、C.P.I. 理事会の承認を得ました。

会員のスリランカ・インドネシアへの支援の経験や相互の交流を大切にしながら、本年度は里親会の開催や横浜国際協力まつりへの参加を致しました。今後は会報の発行、神奈川ライブラリ（現地の子ども向けの図書を充実させる神奈川独自活動）などを予定しております。（岡田 記）

## ◆2001 年度の神奈川地域会の活動実績予定◆

1. 神奈川地域会として新たに発足  
平成 13 年 10 月 7 日 かながわ県民センター  
C.P.I. 全体の動き、横浜国際協力まつり参加、地域会報発行、神奈川ライブラリの再開、組織の改定（連絡協議会⇒地域会）などについて、話し合いました。
2. 横浜国際協力まつりへの参加  
平成 13 年 11 月 10 日-11 日  
横浜産業貿易センタービル  
紅茶 100 個、キーホルダー 50 個への寄付金 6 万円のうち仕入れ代を除いたものを今後の活動費としました。
3. 神奈川地域会会報の発行  
（予定・現在記事を検討中です）
4. 神奈川ライブラリの活動（予定・現在スリランカとインドネシアの状況を調査中です）

神奈川地域会では、地域会の世話役を募集しています。世話役代表 小須田和良さんまでお気軽にご連絡ください。（TEL 0467-31-4304）

## C.P.I 本部からみなさまへ

神奈川ライブラリーファンドは、地域会における発想を大事にして、現地でのきちんとしたプログラムにつながるよう本部がバックアップを行う形で始められたものです。

いま現地では、「里子たちの表現活動」「卒業生からの創作発表への支援要請」をどのように支えるかを考えているところです。C.P.I. の皆さんの知恵とパワーを神奈川ライブラリ活動に結集したらどうかと、考えております。ご意見を下さい。

国際協力まつりにて。対応しておられる中央が、世話役代表 小須田和良さんです。

# 千葉地域会 3つの催し

〔ハイキング〕

日程：13年10月19日～20日

参加者：18人（会員12人、他6人）

尾瀬の水芭蕉は余りにも有名だが、秋のすばらしさは余り知られていない。我々一行はCPI会員が12人、家族や友人が6人で、18人となった。ハイキングの計画は数年前から持ち上がっていたが、なかなか実現しなかった。今回は、世話役会の雑談の中で「尾瀬の草紅葉（くさもみじ）がいいよ」という話題が出て、急遽実行班が結成された。 ➡ 以下、P7に続く

◆ ◆ ◆  
親睦ハイキング  
スリランカ 両理解  
インドネシアの里子たちに会う

〔スリランカ料理会〕

① 日程：13年11月18日

② 参加者：26人

③ 千葉地域会では隔年でインドネシアとスリランカの料理を楽しむ会を催している。今回は4回目を数え、常連のメンバーはすっかりベテランになっているようだ。今回は料理の講師にキッシリ・ペレーラ氏を招いて、カリィ料理にチャレンジした。 ➡ 以下、P7に続く

〔インドネシア里子交流会〕

① 日程：13年9月21日～10月1日

② 参加者：3人

③ 千葉地域会では約2年毎にインドネシアを訪問しており、今回は3度目の訪問で、メンバーも経験者なので交流会は極めてスムーズに出来た。インドネシア側の受入れ機関PPKIJの特別な協力もあって、里子達が各地のセンターに集まることも比較的スムーズにいった。

➡ 以下、P7に続く

〔ハイキング〕

千葉駅と津田沼駅から乗り合わせた18人は、小学生の遠足のように賑やかである。

夜行バスで鳩待峠についたのは4:30だった。気温は3℃位か、手袋をしていても手が冷たい。仮眠した後、5:30に出発した。樹木の小枝は霜氷がついて真っ白になっている。草木は朝日に照らされて、



写真は、スリランカ料理会の様子

〔スリランカ料理会〕

9人の男性は奥さんのエプロンを借りてなかなか可愛い。女性陣に混じって慣れない包丁で、泣きながら玉ねぎを切っていた。中には手際良く肉団子を丸める人もいて、女性から冷やかされたりして、なかなかごやかである。

料理は(1)イエローライス(2)ポークカレー(3)ベジタブルカレー(4)パセリサラダ(5)カツレツで、12時からみんなで談笑しながらの楽しい食事会となった。

食後の本部から入手した紅茶の試飲も評判で、その後に行った紅茶即売会では、100個の紅茶が完売になった。(山川)

正にダイヤモンドを散りばめた草原である。その幻想の世界の中に立って、みんなは歓声を上げた。

危ぶまれた天気も、雲ひとつない快晴となって、皆の心も晴れやかだ。

鳩待峠から山の鼻田代までの約一時間を下り、そこから8kmコースと10kmコースの2班に別れ木道を散策した。

思いもかけぬ初冬の尾瀬に入り込み、めったに見ることのできない景色に出会って皆は満喫した。

帰路のバスの中は、夜行バスの疲れのせいか、快いハイキングの疲れのせいか気持ちよさそうな寝息が聞こえていた。

「春の尾瀬も計画してよ」「今度は温泉タイムを入れてネ」という声もあって再会を約して解散した(山川)

〔インドネシア里子交流会〕

直行便でジャカルタに着き、ジョグジャカルタ、チアンジュール、バンドン、ジョクジャカルタ、マランを巡回して、里子たちに会うことが出来た。

今回も千葉地域会の里子だけを対象にと考えたが、結局それは出来なかった。細かい日程を決める時、里子と如何に無駄無く効率的に、しかも充分話し合い、交流できるかが一番たいへんだ。そのため移動時間を正確に予測する必要がある。

インドネシアの道路の交通渋滞は、行かれた方のご存知と思うがひどい。また飛行機、電車は日本のように頻りに動いているわけではない。いきおいホテルの出発がかなり早くなるため、睡眠の不足気味の日が続く。ここが苦労の種だ。

(次のページへ)

旅費は一人当たり 20 万円、その他地域会メンバーや友人よりの寄付 9 万円があり、ありがたく使わせて頂いた。

千葉地域会では里子の声を直接里親に届けることを目的にしていたが、前記の事情で全センターの里子が集まるので、子供との対話はすべての里子を対象とした。里子たちは“里子訪問に来るのは何故千葉だけなのか？東京、神奈川、埼玉、群馬、大阪など、ほかの地域の方も是非来て欲しい”と訴えていた。今後は他の地域会の方々も一緒に旅行出来ればどれだけ里子達が喜ぶかと思えます。(岡崎)

平成 14 年 2 月 3 日にインドネシア訪問の報告会を予定しています。

## C. P. I 本部からみなさまへ

### 里子との交流 ノウハウ蓄積

につきまして、本部・北海道・東京西部・千葉に相当の資料がございます。それぞれに、その時々、交流の状況にあわせた工夫がこらされています。ですから、全体のプログラムの中で個々の項目ではありますが、地域会主催の交流団を企画されますときには、項目別お問い合わせに応じられると思います。

里子地域の場所	本部へ
里子地域のまわり方	本部へ
地域会員への通知	千葉・北海道へ
地域会員からの要望聴取	千葉・北海道へ
現地交流について	本部・千葉・北海道へ
帰国報告のやり方	千葉・北海道へ
帰国報告書作成	本部・千葉・北海道・東京西部へ

中部ジャワのボルブドール遺跡に一緒にハイキングをしてくれた教育里子たち。困窮する毎日の中でも笑顔を絶やさない。里子たちとの交流は、私たちにとっては、元気をもらえる源泉だ。もっともっと多くの里親さんが訪れたらと思う。

## 第2回埼玉国際協力フェスティバルに参加して

☆ 紅茶は、なんとか捌けたが☆ 埼玉 A 地域会世話役代表 山田康正

国際フェア2001はさいたまスーパーアリーナで9月29日(土)・30日(日)の2日間、物産振興フェアと併せて開催されました。

埼玉 A 地域会は本年も B、C 地域会と合同で C.P.I.埼玉として参加し、スリランカ紅茶と民芸品の販売、パネルの展示と広報物の配布を行いました。

ブースへの来場者は二日間で会員20名、一般500名ほど。

埼玉大のスリランカ人留学生、キルティさん、アヌーラさん、ナリンさんと夫人のチャミーラさん、教官のマナトゥンガさんにも応援に来て戴きました。

去年とは会場が変わり物産振興フェアと併催になったことで来場者は増加し、ブースへの来場者も増えました。

しかしブースの場所的条件が昨年と比較して圧倒的に悪かったことが原因で、用意した紅茶 593 個のうち、212 個残ってしまいました。(後日、山田の地元のイベントで販売したほか、メーリングリストを通じて全国の会員に購入して戴き、なんとか助かりました)

◆キルティさんからのメール (抜粋)

I think it was just small contribution that we did, compared to the voluntary work you are doing in Sri Lanka. I hope that your event was a success.

If we could be of any help, then that is our pleasure. I have sent your mail to all my friends.

1月25日(日)

「現地語で手紙を書く会(用意した英文の手紙を留学生に現地語に翻訳して戴きます)」を開催いたします。



アヌーラさん(左端)、  
キルティさん(左から3人目)



テレビ埼玉の取材を受ける



# スリランカ現地リーダー会議

報告：C.P.I.会長 小西 菊文

2002 年度にスリランカでの地域センターの数は、100 となることになりました。

本部センター管轄の教育里子数を減らし、地方の地域センターの奨学生をひとつの地域センター当り 25 名以下にして、一人ひとりへの気配りができるように改善を進めてきた結果です。そのうち C.P.I.の教育里親が支援している教育里子の居る地域は、60 地域ほどです。これは、定住率が高く 9 年生から 13 年生までの把握ができることを C.P.I.からの教育支援（奨学）の条件にしているためです。

他の地域は、ゲリラの出る地域にあるために定着率が低く、C.P.I.の教育里親へのご報告が途切れる恐れがあるため、C.P.I.からは支援していません。

他の地域は、USUI-LANKA 教育基金等で支援し、特にゲリラ出没地域では学用品支給のみ行っています。

11 月 2 日、C.P.I.の支援する地域のリーダーにお集まりいただき、2002 年度の方針を話し合いました。

## 文通できない子どものこと

教育里親のなかには、「自分の里子はもう 2 年も手紙をよこさない。本部からの連絡だけでは、温もりを感じない。つまらないから退会する」という方もいらっしゃいます。どのように対処するべきでしょうか？ と質問を投げかけました。

以前、スリランカ現地本部は、手紙を年間 3 回書く義務を課し、その義務を果たせない子どもは奨学生から外す

(次のページに続く)



集まったのは 62 地域センターのリーダーたちです。

という処置をとったことがあります。  
その処置は、地域センターから猛反発がありました。

地方の、とくに辺地の子どもたちは、朝早く学校に行く前、あるいは帰宅後に水汲みそのほか家庭の手伝いをする事が多く、里親にゆっくりと気持ちをこめて手紙を書く時間がとれない子どもたちが殆どとのことです。

確かに年間3回、地域センターの集まりで手紙を書く日と決めていますが、文章を書くことが不得意な子どもにとって、おざなりの手紙になってしまう傾向にあり、あるいは宿題としてしまわなければならない場合もあるそうです。

そのような場合、地域リーダーは「宿題としての手紙」をチェックしなければならないが、健康・家庭の問題など優先すべきことが多いために、あっという間に月日がたってしまうとのこと。

うなずける事実ではあります。

## 地域リーダーに行った提案

そこで、今回私は、ひとつの提案を行いました。1年に一度、地域特有の課題と、ぜひ紹介したい子どもの一列をレポートして欲しいというものです。

## それができたら、次の段階は…

そのことが定着しましたら、次は、一人ひとりの子ども（家庭状況を含む）について手紙形式でレポートする、地域リーダーのアシスタントをおけるようにしたいと思います。ただし、これは仕事として定める必要があり、給与を出すための何らかのプロジェクトと並行して考えなければならないでしょう。

なぜなら、年間1600名の教育里子への支援を維持できるのは、奨学支援・健康管理・励まし活動・学業継続へ向けての家庭との話し合い・年2回の調査を行い整理する予算の範囲であり、上記費用までは無理だからです。ご了解ください。

地域リーダーたちは、小西からの提案に、全員が同意してくれました。

# 会員の皆様へ感謝します

C.P.I. 会長 小西 菊文

C.P.I.教育文化交流推進委員会が教育里親活動を発起してから17年、新聞で初めての公募をしてから（1989年1月24日）から13年がたちました。

2001年には、OECDの「世界の公益団体ベスト6000」にも選ばれ、公益法人化も目前にしております。これまでの道をふりかえってみますと、今日までスリランカ、インドネシアへの教育支援を続けていられますことは、ほんとうに会員の皆様のおかげと深く感謝を申し上げます。

本年1月の理事会で、私が教育協力NGOネットワークの世話人として動くことにご了解を賜り、同ネットワークで「日本のNGOによる教育協力の進め方」に係わる研究会を、外務省の支援を得て発足させました。その様は、C.P.I.メーリングリストに加入して下さっておられる方々には適宜お知らせしてまいりました。2月以降には成果をとりまとめまして、すべての会員の皆様にお配りできる予定であります。

また最近、文部科学省の「日本の教育協力に係わる政府—NGO間の協力の仕方」に係わる作業部会の委員となることになりました。その間、様々な感じたことがございます。

政府とNGOの大きな違いは、NGOによる教育協力の方は、参画者あるいは寄付者が活動運営に対して納得されないときは、ただちに資金を失うという点にあるます。支援の相手である子どもたち一人ひとりの成長の過程を大事にしなければならず、“就学率”や“進学率”といったマクロな評価だけで成果を問うだけでは成り立ちません。とくに、C.P.I.の教育里親制度におきましては、運営者は、受け持ちする奨学生の刻々と変わる状況への対処を問われるわけです。「政府は納税者に責任がある」と政府の方々はことあるたびに言われますが、資金の提供者からの風の受け方は根本的に違うわけです。活動へのご納得が大きければ順風になりましょうし、逆風になることもあるということです。

ですから、活動へのご納得をいただけますよう、会計委員会の歴代委員長（公認会計士、税理士の皆様）は、活動のアカウンタビリティ（とくに会計の信頼性）を高めるために1989からの帳簿を無報酬で厳しく帳簿を調べてくださり、監査をして下さって、誠に頭の下ることです。また、会の規約をつくりあげ、組織の活性化に取り組み、報告・広報の方針を考えてくださり、里子たちとの交流を企画して下さる理事の方々、地域会で会員の皆様からのご質問・ご提案をとりまとめ親睦行事を行い、各地の国際協力まつりに会を代表して参画して下さり、地域会報できめ細かくコミュニケーションを図っておられる地域会世話役の皆様に、厚く御礼をもうしあげるものです。

経済不況がまだまだ続く今日、別の形でNGO活動への逆風が吹いているのは確かです。だからこそ、会員の皆様からの活動へのご納得がいかれますように、本年も精一杯の努力をしていく所存です。ご不満がごありの折には、事務局までお電話あるいはe-Mailでご連絡を戴きたく存じます。そして、風通しのよい会として、ますます素晴らしいC.P.I.として成長できますよう、皆様方のご協力、ご鞭撻をお願い申し上げます。

